

# TDM推進委員会見聞録（第六章）

## TDM施策の絞込み方法を提案

第6回 TDM 推進委員会が、平成17年4月19日（火）午後2：00より、相模原市役所第3委員会室で行われました。

今回は、愛川線の混雑状況をパソコンのシミュレーションで表現する「現況再現シミュレーション」の再確認を行った後に、TDM施策の絞込み方法の提案が事務局からありました。

委員の皆さんから事前に伺った意見を基に、「導入すべきTDM施策」と「導入に向けた検討をすべきTDM施策」について選定して、更にその中で「社会実験」と「シミュレーション」により検証すべき施策についても選定しました。

事務局の説明に対して、選定の方法について更に多くのデータを活用すべきのと意見が多く出されましたので、整理の仕方を再検討することになりました。



## 議題について

高橋委員長の進行により議題が進められました。以下その内容を掲載します。

### （1）現況再現シミュレーションについて

入力条件を変更して現況に近づくように調整してきましたが、実際と異なる点などの意見を伺いました。

特に意見は出されませんでした。愛川線と大磯線の交差点が改良されて、新たに信号が設置されたことにより渋滞が発生している状況説明が事務局からあり、渋滞長の変動が安定してから、シミュレーションに反映していきたいとの報告がありました。

### （2）TDM施策の絞込みについて

事務局案の「導入すべきTDM施策」と「導入に向けた検討をすべきTDM施策」について、その絞込み方法や社会実験・シミュレーションを実施すべき施策、実施する事業主体などについての説明がありました。

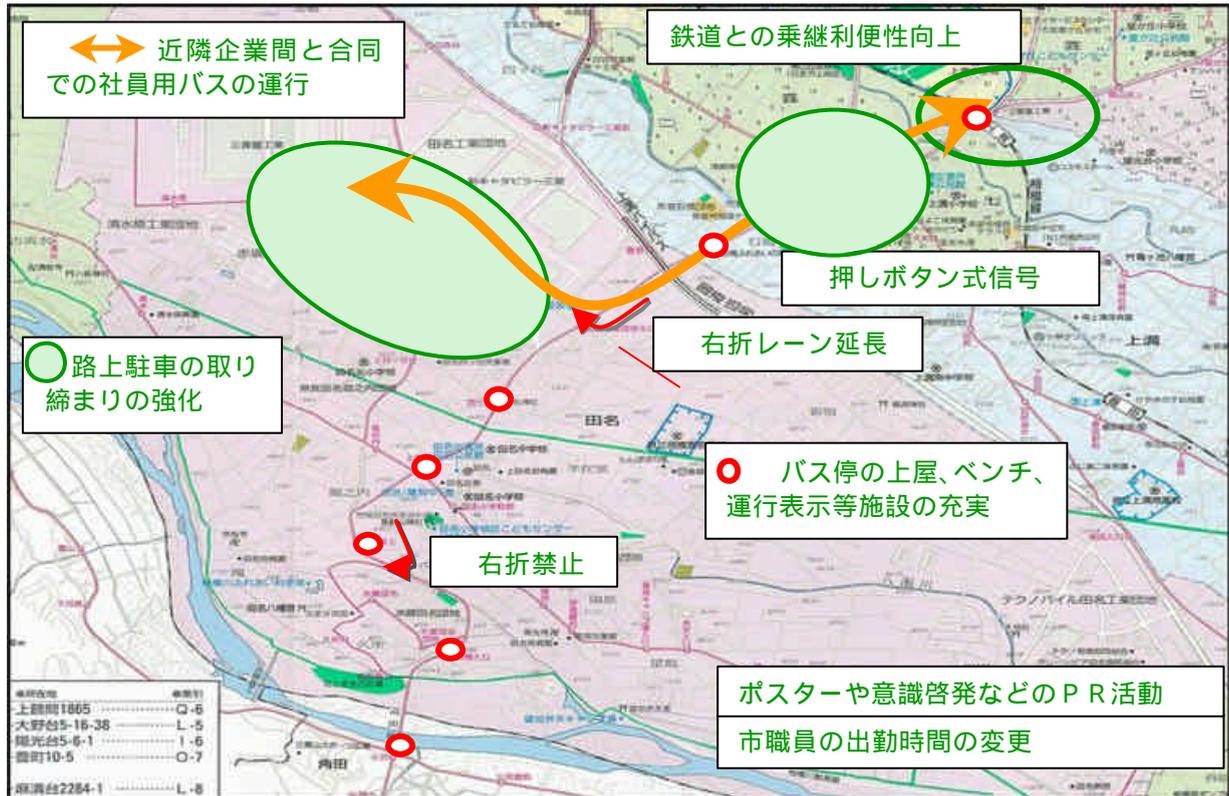
事業主体については、市や県、警察やバス事業者などに役割分担がされて、多方面の協力が必要であることがあらためて浮き彫りになりました。

また、今回のTDM施策とは別に、市等で個別に検討を進めている「PTPS」、「コミュニティバス」、「バスロケーションシステム」についても併せて説明がありました。

事務局案の「導入すべきTDM施策」の概要は以下のとおりです。



## 導入すべきTDM施策(事務局案)



主な意見交換は次のとおりです。

- ・ 田名工業団地入口の交差点の右折レーン延長は現状の道路で可能なのか？  
社会実験については、特に歩道を改良することなく可能である。
- ・ 鉄道との乗継利便性向上におけるバス・鉄道共同時刻表の作成とはいかなるものか？  
バスと鉄道の時刻表が一体になって携帯できるものを想定している。
- ・ 近隣の企業で合同の社員用バスを運行するのは、企業とバス事業者が事業費を負担するのか？  
全ての費用を負担することはない。実験の段階は市も費用負担することを想定しているが、本格実施に向けては別途検討が必要。
- ・ 他の市では、近隣企業との企業バス相乗りは難しいというケースがあるが、田名地区の場合はどうか？  
実験ならば協力は可能。本格実施については課題がある。
- ・ TDM施策候補を交通行動に直接影響するものとPR活動等間接的に影響するものに整理した上で社会実験を実施する施策を絞り込んだらどうか。  
今までの検討経緯も踏まえて、施策の絞込みの経緯をとりまとめる。

### (3) 今後の進め方について

社会実験のPR活動を7・8月頃から開始をして、実験を10月ごろ行う予定です。次回は今回の意見を集約した資料を基に、施策の絞込みの最終段階になります。

詳しい会議録については、相模原市ホームページの「審議会等の情報」よりお入りください。次回は6月20日(月)に開催。